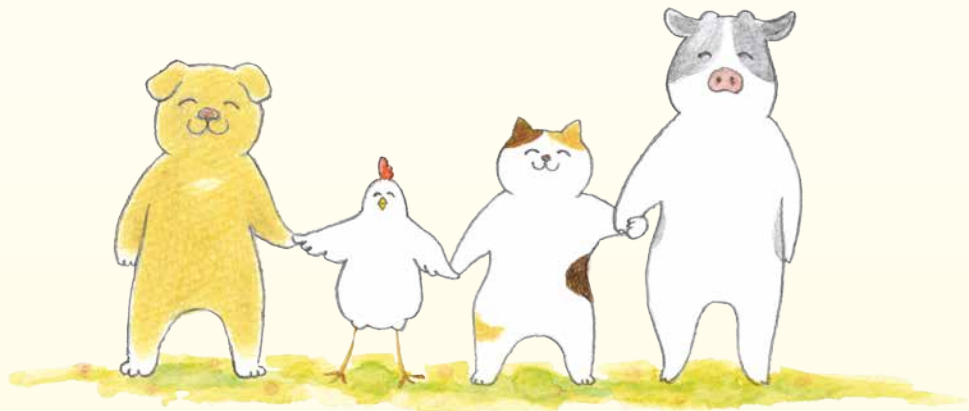


アニマルウェルフェア

vol.1

アニマルウェルフェアってなんだろう？

私たちの周りには、たくさんの命があります
私たちは、たくさんの命に支えられています





お母さん牛がお乳を出し続けるためには、ずっと子どもを産み続ける必要があります。乳牛は人間と同じ10か月程の妊娠期間を経て出産します。そして泌乳しながら妊娠し、妊娠を継続しながら母乳を出し続けるというサイクルを繰り返しています。さらに、年々、よりたくさんのお乳が出るように品種改良され、母牛の身体への負担が大きくなっています。

仔牛は生まれてすぐに母牛と離され、直接母牛のおっぱいからお乳を飲むことはほとんどありません。私たちが牛乳を飲んでいる一方、母乳ではなく人口乳を飲んで育ちます。

乳牛は2歳で初めての出産を迎え、日本では生涯で平均2.8回出産を経験すると足腰が弱くなり自力で立てなくなったり、お乳の出が悪くなり、廃用牛として短い生涯を終えることになります。

海外では、アニマルウェルフェアに配慮した農場で生産された畜産物に対する「認証制度」があります。酪農先進国オランダを例にみると、2020年には放牧が義務化になりました。目的は、動物福祉、乳質の向上、オーガニック酪農の推進です。また、産児数(母牛が生涯に子を産む回数)は平均5産を目標(日本の倍)としています。

人間と同様に適度な運動でストレスを軽減し健康な身体を作ること、健康的な食事を取ること、無理なお産や搾乳をしないことが母牛の身体への負担を減らし、長生きできる、牛に優しい生産方法です。日本では(公社)アニマルウェルフェア畜産協会が、乳牛に対しての認証制度をスタートしました。52項目の審査項目があり、うち8割以上が満たされている農場に対して合格のマークが付与されます。



つなぎ飼い乳牛の写真

日本では95%以上の鶏が「バタリーケージ」、1羽につきB5版サイズ程度の身動きもとれない檻の中で一生を過ごします。しかし、世界は大変早いスピードでケージフリー(廃止)に進んでいます。EUでは2012年からバタリーケージが禁止され、どういった飼育方法かが卵にスタンプされています。(0:有機飼育、1:放し飼い、2:平飼い、3:ケージ飼い)

卵を購入する理由(基準)として「安さ」ではなく、どれだけアニマルウェルフェアに配慮されているかが定着してきているのです。

日本は世界第2位の卵の消費国です。消費者としてできることはなんでしょうか。まずは、卵は本来とても貴重なものだと思わずにいただくこと。身近で手に入りやすい「平飼い卵」など、アニマルウェルフェアに配慮された卵を選ぶことで、農家の応援にもなり、鶏のしあわせに貢献できます。



バタリーケージの写真

「いただきます」はとても大切。

動物たちにありがとう。

育てる人にありがとう。

おいしい食べ物を与えてくれる動物たちが過ごす時間に目を向け、動物たちが幸せに過ごせるように、できることを考えてみませんか？

5つの自由 心ころ と からだ

栄養

飢えと渇きからの自由

新鮮な飲み水と適切な量と質の食べ物はありますか



食べ物を探すのは動物たちの大事な仕事です。わざと取りにくいエサ入れにしたり好みのエサを選べるようにしてあげるとお腹だけでなく気持ちも満たされます。

アニマルウェルフェア(動物福祉)が満たされているかどうかは、動物の状態をみると分かります。それを5つの指標によってあらわすことができます。

これは世界共通の指標で「5つの自由」といいます。

一羽一頭ずつ体調管理をして病気やケガを防いで生涯健康に過ごせたら良いですね。

健康

ケガや病気からの自由

ケガをしたり病気になるための体調管理やもしもの時は治療してもらえますでしょうか



心ころ

恐怖やストレスからの自由

肉体的にも、精神的にも、不安や恐怖、過度なストレスを与えていませんか

強いストレスがかかると、心も体も病気になるりやすくなります問題を先極めて改善すること、思いやりの気持ちで動物たちに接することが大切です。

環境

不快からの自由

暑すぎたり寒すぎたり寝床が湿っていたりせず身体を休められる過ごしやすい環境でしょうか



好きなときに快適な場所で過ごすことは、身体と心の健康を保つのに必要ですよ。

この「5つの自由」をもとに動物たちが生まれ てから死ぬまでの状態がより良くなるように工夫・改善することがアニマルウェルフェア(動物福祉)の向上です。

行動

自然な行動をする自由

それぞれの動物本来の行動ができるようになっているでしょうか



羽や手足を自由に動かしたり、穴を掘ったり、身づくろいをしたり……群れで暮らす動物は仲間の存在も必要です。

5つの自由は人と関わる全ての動物に大切な指標です

「5つの自由」を知ったうえで改めて動物たちをみつめると疑問がわいたり、してあげられることが見えてきませんか？ 私たち人間の暮らしと動物たちがどんなふうに関わっているのか身近なところから目を向けてみてください。

鶏は本来、一日に一万回以上も地面をつついて食べ物を探すだって！
バタリーケージでは床もすべて金網で、本能を満たすことが出来ないね。



砂浴びや日光浴をして自然に健康に育った鶏の卵を選びたいな。

牛舎の中の牛はつながれていてトイレはどこでするのか？



まだ多くないけれど認証マークのついている牛乳を見つけたら、買ってみよう！

チーズ・バター・生クリーム。牛乳から作られている食品ってたくさんあるね！

調べて・答えて、もっとわかる！

アニマルウェルフェアクイズ

Q1. 豚は時速何キロで走れる？

Q2. 鶏が砂浴び(砂の上で羽を広げたりひっくり返って体をこする)をするのは何のため？

Q3. 牛の主食は何？

- A1. 最高時速40km | 日本ではほとんどの豚が畜舎で飼われていますが、豚は本来、遊び好きで、運動やどろんこ遊びが大好きな動物です。数は少ないですが、放牧を実践している農場もあります。
- A2. 体についた汚れや、寄生虫などを落とすためです。しかしバタリーケージの中では本能的な砂浴びの動作を出来るスペースも少なく死ぬまで金網の床で過ごします。
- A3. 草です。4つの胃で反芻しながら1日50キロもの草を食入れます。でも私たち人間のために濃い牛乳を出せるように穀物などを与えられ、生態に合わないものを食入続けるために多くの牛が病気で苦しんでいます。



犬や猫を大切にする方は
どうしたら彼らが幸せなのか
考えるとと思います

ふかふかのベッドを用意したり
暑さや寒さに気をつけたり
病気になったら動物病院に行ったり
最期の時を迎えるまで
できるだけ苦しみがないようにと願うでしょう

生まれてから死ぬまでの間
心と身体とその行動を、
客観的に考えることが
アニマルウェルフェア(動物福祉)です

たとえば、食として命を与えてくれる畜産動物たち
「命」が「食」へ変わる瞬間までを
消費者として考えることで
命に優しい選択ができるでしょう
みんな同じ、大切な命だから……

